

## 開会あいさつ

Opening Address

森田 彦

札幌学院大学社会情報学部長の森田です。ようこそ札幌へお越し下さいました。

私どもの札幌学院大学社会情報学部は、1991年の開設以来今年で20周年を迎えました。この節目の年に「第2回知の創成と検証に関するシンポジウム—集合知としての社会情報学：そのアイデンティティ」をこの札幌の地で開催できましたことを大変うれしく思っております。このシンポジウムは青山学院大学の増永先生を代表とする科研費基盤研究の一環として開催されているものですが、「社会情報学とは何か」という問いに真正面から取り組み、それに答えるべく集合知の活用によってその学問体系の構築を目指すという大変野心的な研究プロジェクトの成果に触れることができる貴重な機会です。

この20年間、インターネットの普及やWebの登場を始めとする情報通信技術のめざましい進歩によって社会も大きく変わってきました。それに伴い、私どもの社会情報学に対する捉え方や意識も変わってきました。その変遷は、この間の学部カリキュラムの変遷にも反映されています。今回のプログラムには、そのような札幌学院大学社会情報学部のカリキュラムの変遷を、最も新しい社会情報学部である青山学院大学のそれと比較する形で確認できるようなセッションも含まれており、集合知創成に関する基礎研究のセッションと併せて大変楽しみにしております。

最後に、このような貴重なシンポジウムの企画・準備に携わって来られた関係者の方々に感謝の言葉を述べまして、私のご挨拶とさせていただきます。